

花粉症(季節性アレルギー性鼻炎)

川口市立医療センター

薬剤部 すずき 鈴木 まゆみ 真由美



花粉症とはスギやヒノキなどの花粉が原因となり、くしゃみ・鼻水などのアレルギー症状を引き起こす病気です。日本では約60種類の植物が花粉症を引き起こすといわれています。花粉が目や鼻から私たちの体に入ると、異物(アレルゲン)と判断し、リンパ球がIgE抗体(アレルゲンと反応する物質)を作り、肥満細胞にくっつきます。再び花粉が侵入すると目や鼻の粘膜にある肥満細胞のIgE抗体に結合し、肥満細胞から化学物質(ヒスタミンなど)が分泌され、くしゃみ・鼻水・目のかゆみなどの症状が出ます。

これらの症状を抑えるために、抗ヒスタミン薬・抗ロイコトリエン薬・遊離抑制薬・ステロイド薬・血管収縮薬などの治療薬や舌下免疫療法があり、薬の剤形は飲み薬・点鼻薬・点眼薬があります。

- 抗ヒスタミン薬**: 最もよく使われる薬で、特に第二世代抗ヒスタミン薬は眠気などの副作用が起こりにくい薬です。薬局などで処方箋無しに購入できます。
- 抗ロイコトリエン薬**: 鼻づまりの原因となるロイコトリエンと呼ばれる物質の作用を抑える薬です。
- 遊離抑制薬**: ヒスタミンやロイコトリエンなどアレルギーの原因となる物質の分泌を抑える薬です。
- ステロイド薬**: 副腎皮質ホルモンとも呼ばれ、炎症を抑える働きを持つ薬です。
- 血管収縮薬**: 粘膜の血管を収縮させて腫れを抑えて鼻づまりを解消する点鼻薬です。
- 舌下免疫療法**: 花粉飛散時期前から少しずつアレルゲン物質を摂取することで免疫力を高めていく治療です。

花粉症の症状を効果的に抑えるには、医師や薬剤師に相談し自分に合った薬を服用することが大切です。